

「子育ての社会化」における新しい子育て・家庭支援のあり方

—教育・心理・福祉の専門性を生かした支援の可能性—

芳川 玲子 岡田 守弘

(横浜国立大学)

<要 旨>

近年、子育てに不安やストレスを抱える親をサポートする「子育て支援」が重要となっている。子育てを親にのみ任せるのではなく、社会全体や地域全体で支援する「子育ての社会化」からとらえ直す考え方がある。本研究はこの視点に立って、幼稚園児を持つ保護者(900名)を対象にアンケート調査を実施し、子育て意識、家庭の育児機能と子育て支援に対する要望を検討した。分析は、因子分析、最適尺度法を用いた。

その結果、①子育て意識では複数の子どもを持つ親ほどストレス度は高いが一体感も高く、②屋外遊び、TV視聴の仕方、しつけ等に工夫をこらしている。また、子に対するコミュニケーション方略を基に無関与群、受容・共存群、能動群に類型化したところ、④コミュニケーションを意識していない保護者は疎外感が高く、子育て支援への要望は未分化であり、預かる場、子育て情報を求め、⑥能動的な保護者は、個性や能力を伸ばさせる場や子育てアドバイスを求めることが明らかとなった。

<キーワード>

子育ての社会化、子育て意識、家庭の育児機能、子育て支援の方向性

【はじめに】

我が国が人口減少社会に向かって進んでいることはすでに周知の事である。出生率の減少した少子社会は、子どもの成長にとって一つの危機状態を作り出してもいる。子育ては充実感や一体感をもたらすが、子ども数の減少はきちんとした子に育てなくてはという緊張感やストレス感を過剰にもたらしかねない。今の親は少子化社会がスタートした後に成長した世代であり、大切にされた経験はあるものの、対人関係能力とソーシャル・スキルが上手に身に付いていないところもある。加えて、価値観や生き方の多様化が主勢となり、核家族化が進み、他の家庭や地域から子育てについてのノウハウを学ぶ機会も少なくなっ

た。子どもは社会全体の宝であるとの視点に立った時、一人一人の親が安心して子どもを育てられるように、社会や地域が支援するという考えが生まれてくるのである。この視点に立って、親が安心して子育てができるためにはどのような支援が必要であり、また、親が自分でしなければならないと考えているのはどの部分なのか、などについて考察を進めたい。

【研究目的】

本研究では、親が安心して子育てできるためにはどのような支援が必要か、また、子育ての役割分担の際、親自身がしたいのは何であろうかを解明するために調査を行うこととした。調査内容は、具体的には、以下の3点

である。①親の子育て意識、②家庭の育児機能、③子育て支援への要望。

【研究方法】

(1)対象者：首都圏に位置するK市の3地域にある4幼稚園に通う幼児の保護者900名を対象に調査を行った。A幼稚園はK市の南部工業地域に位置し、比較的新しい。B幼稚園はK市の中心部の商業地域に位置し、古くからの住宅が多く、地域の文化性が強く残っている。C幼稚園はK市の北部住宅地域にあり、一戸立ての住宅地と大手会社の社宅が混在し、居住者の移動が頻繁で、二世世代家族も多い。D幼稚園はC幼稚園のすぐ近くにあり、住宅地域で、核家族が多い。

(2)調査用紙：子育て意識尺度(15項目、4件法)、TV視聴や屋外遊びの状況、子との関わり(コミュニケーション方略)、躰の困難、他の子の行動への気掛かり、他の親への気掛かり(以上、多肢選択法、一部は複数選択法)、躰の重点、子育ての悩み、親の養育責任、子育て支援への要望(順位法)、さらに、基本属性(回答者の性別、年齢段階、就労状況、子どもの同胞順位・性別・年齢、家族構成、老親同居)から構成されている。

(3)調査手続き：配布留め置き調査法で、配布1週間後に各幼稚園ごとに回収した。

(4)分析方法：子育て意識尺度は因子分析で、複数選択法項目は多次元尺度法で解析した。

【結果】

900名の保護者にアンケート調査を依頼したところ、644名から回答が得られた(回収率72%)。なお、回答者の属性を分析すると、母親からの回答は98%、年齢は30~39歳が80%を占めていた。子どもが小さいせいもあって、77%

の親は就労をせず、子育てである(表01)。

表01 回答者の属性

	男児の親		女児の親		合計	
年代						
20~24歳	0	.0%	2	.7%	2	.3%
25~29歳	19	5.8%	23	7.6%	42	6.7%
30~34歳	125	38.2%	119	39.3%	244	38.7%
35~39歳	145	44.3%	124	40.9%	269	42.7%
40歳以降	38	11.6%	35	11.6%	73	11.6%
合計	327	100.0%	303	100.0%	630	100.0%
就労						
はい	68	20.8%	74	24.4%	142	22.5%
いいえ	257	78.6%	226	74.6%	483	76.7%
無回答	2	.6%	3	1.0%	5	.8%
合計	327	100.0%	303	100.0%	630	100.0%

(1)分析Ⅰ 基本的分析結果

(1-1)子育て意識について

子どもの性別無回答あるいは男性回答者を除き、第1子の保護者(多くは母親と想定される)の回答(622人)を対象とした。子育て意識15項目への回答が得られた315人が因子分析の対象とされた。

主因子解の後に、斜交回転(OBLIMIN)を行ったところ3因子が抽出された。負荷量の高い項目の内容に従うと、第1因子は「自分のやりたいことができない」「社会から遠ざかっている」など疎外感を表す因子、第2因子は「子どもこそ生きがい」「重要なのは子ども」など、子どもとの一体感を表す因子、第3因子は「ほめるより叱ることが多い」「忙しくしていて、待つことができない」など子育てのストレスを表す因子であると解釈された(表02)。

それぞれ第1因子をストレス感、第2因子を一体感、第3因子を疎外感と名付けた。これらの因子への負荷量の高い項目の単純加算によって、それぞれの尺度とした(α 係数は、順に、0.632、0.765、0.609)。

表02 子育て意識の因子分析結果

因子負荷量行列 (OBLIMIN回転後)	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
自分のやりたいことができない	.5471	.0253	-.0632	.3308
子育て中心で社会から遠ざかっている	.4692	.1433	.0365	.2068
子どもがいなければよかった	.4574	-.2471	.0170	.2974
育児ノロゼになる人の気持ちがわかる	.4485	.0118	-.1651	.2936
充実感がある	-.3250	.3129	.1580	.3124
子どものいなかった時の生活を振り返る	.3174	-.0132	.0237	.0960
子どもこそ生きがいである	-.0596	.7290	-.0014	.5480
自分の中で重要なのは子どもである	.0022	.6916	.0054	.4784
子どもさえいれば幸せである	.0338	.6606	.0109	.4315
子どもは自分の体の一部のような	.0972	.6215	-.0615	.3814
ほめるより叱ることが多い	-.1007	.1305	-.7911	.5713
忙しくしていて、待つことができない	.0267	-.0824	-.5639	.3459
子どもをたたいたり、つねったりする	.0341	-.0054	-.4763	.2431
子育てに自信がなくなる	.2854	-.0292	-.2946	.2487
因子間相関	第1因子	第2因子		
	第2因子	-.1523	1.0000	
	第2因子	-.4515	.0666	

子育ての意識尺度を男児の保護者と女児の保護者別、子どもの数別に分析したところ、子どもの性別において親のストレス感、一体感、疎外感に違いはなく、子どもが一人の親は子どもが複数の場合よりもストレス感と疎外感が低い結果であった。

(1-2)子への関わり方(コミュニケーション方略)

子どもとのコミュニケーションでは、「抱き寄せてスキンシップをする」が57.6%、「休日は家族全員で過ごすようにしている」が37.9%、「言葉をかけることを多くしている」が37.0%であった。なお、「これとって意識していない」との答えも16.6%あった(表03)。

表03 子への関わり方で心がけていること(複数選択)

	男児の親		女児の親		合計	
受け止めて	90	29.3%	87	30.9%	177	30.1%
スキンシップ	185	60.3%	154	54.6%	339	57.6%
言葉かけ	112	36.5%	106	37.6%	218	37.0%
親子で一緒	39	12.7%	39	13.8%	78	13.2%
家族全員で	116	37.8%	107	37.9%	223	37.9%
意識していない	48	15.6%	50	17.7%	98	16.6%
合計	307	100.0%	282	100.0%	589	100.0%

(1-3)子育ての悩み、子育て支援への要望

(1-3-a)子育ての悩み

子育ての悩みを最も悩む順から答えてもらったところ、①ほめ方・叱り方、②生活リズムの作り方、③遊ばせ方、④安定した気持ちで子育てができない、⑤テレビの見せ方、⑥他の親との付き合い方、⑦家族が子育てに参加しない、⑧子育ての孤立感、の順であった(表04)。

表04 子育ての悩み(平均順位)

	男児の親	女児の親	合計
生活リズム	3.60	3.49	3.55
TV視聴	4.13	4.48	4.30
ほめ・叱り	1.50	1.72	1.60
遊ばせ方	3.71	3.61	3.66
親の付き合い	4.40	4.40	4.40
子育て不安定	4.03	3.89	3.96
孤立感	6.90	6.57	6.74
家族の不参加	6.18	6.16	6.17

数値が小さいほど重視している

なお、具体的な悩みについての記述を分類したところ、子どもの健康・性格・行動に関する記述が全体の68.5%を占め、その内訳は、

アトピーなど身体に関する悩みが12.8%、思い通りにいかないとすぐ切れるなど性格に関する悩みが28.1%、友達ができにくいなど対人関係に関する悩みが12.8%、食べ物の好き嫌いが激しいなど生活規律に関する悩みが7.4%であった。親自身の悩みに関する記述では、子どもへの接し方など子育てに関する悩みが17.7%、他の親との考え方が違うなど他の親との関わり方についての悩みが3.0%、自分の生き方に関する悩みが0.98%、父親が不在がちなど家族のありかたについての悩みが3.0%、安値で子どもを預けられる場が欲しいなど社会資源の利用についての悩みが5.4%あった。この結果はアンケート内の選択肢とほぼ一致しており、親自身と子どもとの接し方が悩みの中心になっていることが明らかとなった。

(1-3-b) 子育て支援への要望

地域や行政機関に支援してもらおうとしたら、何を望むかの問いに対して順位をつけてもらったところ、①子どもと一緒に遊べる場の用意、②子どもを一時的に預かる場の用意、③子育てに関する情報の用意、④子育てのアドバイザーの用意、⑤子どもの特徴を尊重した特別支援の場の用意、⑥子育て講座の実施、⑦子育てサークルのような親の会の用意、⑧早期教育の場の用意、の順であった(表05)。

表05 地域・行政への子育てサポート要望(平均順位)

	男児の親	女児の親	合計
子育て講座	5.19	5.32	5.26
一時預かり	2.58	2.72	2.64
アドバイザー	3.78	3.95	3.86
子育て情報	3.40	3.29	3.34
特別支援	4.01	4.24	4.12
子育てサークル	5.50	5.29	5.40
一緒に遊ぶ	2.62	2.40	2.51
早期教育	7.28	7.20	7.24

数値が小さいほど重視している

(2) 分析Ⅱ 子どもとの関わり方別による分析

(2-1) コミュニケーション方略による類型化

コミュニケーション方略に焦点を合わせて、子どもへの関わり方について訊ねた質問項目への回答をもとに、最適尺度法を行った。次の6選択肢の中から制限法によって、2つまで選択してもらった(複数選択)。

1. 子どもの気持ちを受け止めて一緒に感動する
2. 抱き寄せてスキンシップをするようにしている
3. 言葉をかけることを多くしている
4. 親子で一緒に遊ぶようにしている
5. 休日などは家族全員で過ごすようにしている
6. これとって意識していない

選択された回答を1-0型のカテゴリカル変数に変換して、等質性分析(Multiple correspondence Analysis)を行った結果、能動的-受動(受容)的、共存的-無関与的の2次元が得られた(附図4)。数量化された個人得点(第1次元:最小値-1.41~最大値7.28、第2次元:最小値-3.91~最大値3.35)をプロットして6群に分類することができた。6群それぞれに属する個人の回答パターンを調べ、群の等質性が明確である次の3群について、他の質問項目との関連を吟味することとした(表06)。

表06 子への関わり方略(複数選択)

	関わり類型群					
	第1群		第2群		第3群	
受け止めて	0	.0%	96	100.0%	0	.0%
スキンシップ	0	.0%	86	89.6%	0	.0%
言葉かけ	0	.0%	0	.0%	54	90.0%
親子で一緒に	0	.0%	10	10.4%	0	.0%
家族全員で	0	.0%	0	.0%	60	100.0%
意識していない	24	100.0%	0	.0%	0	.0%
合計	24	100.0%	96	100.0%	60	100.0%

第1群は「関わり方について特に意識的に行っていない」ので無関与的を特徴とし、第2群は「子どもの気持ちを受け止めて一緒に感動する」「抱き寄せてスキンシップをするようにしている」「親子で一緒に遊ぶようにしている」ので受容的・共存的を特徴とし、

第3群は「言葉をかけることを多くしている」「休日などは家族全員で過ごすようにしている」ので能動的である。第2群が最大数96人(分析数582人中の16.5%)で、ついで第3群が60人(10.3%)、第1群は24人(4.1%)と少数であった。これら3群の特徴を検討し、子育て支援要望の違いを整理することとした。

ストレス感では第2群が第1群、第3群よりも低く(5%水準)、一体感では第1群が最も低く(5%水準)、疎外感では第1群が他群よりも有意に高かった(5%水準)。

コミュニケーション方略について特別に意識しておらず無関与的を特徴としている第1群は、子育てにおけるストレスが高く、一体感が低く、疎外感を強く抱いていた(表07)。

表07 関わり方3群の子育て意識(平均値)

	第1群	第2群	第3群
ストレス感	2.81	2.59	2.79
一体感	2.26	2.88	2.86
疎外感	2.58	2.31	2.41

(2-2) 家庭の育児機能に関する態度

子どもへの躰において、第3群は他群より挨拶やエチケットを重視しているが、自分を守る知恵や技術については第1群、第2群に比べて重視していない(5%水準)。

子育てでの悩みでは、ほめ方・叱り方、生活リズムの作り方、テレビやビデオの見せ方、遊ばせ方、配偶者や家族が子育てに参加してくれないという悩みにおいて、3群の間にその重みが異なっていた。第3群では、遊ばせ方の悩みは高いが、生活リズムやTV視聴や家族の不参加での悩みは第1、2群よりも低い(5%水準)。第2群ではほめ方・叱り方の悩みは他群ほど高くないが、家族の子育て参加に関わる悩みは他群よりも高い(5%水準)。第1群は、第3群と比べると、生活リズム、T

V視聴の悩みは高いが、遊ばせ方への悩みは高くない(5%水準)。

親が責任を持って子育てするべき力点では、第3群が他群と比べて挨拶の仕方を重視して特徴的である(表08)。

表08 関わり方3群の躰の重視、子育て悩み、親の責任

	第1群	第2群	第3群
躰の重点重視(平均順位)			
挨拶	2.83	3.06	2.16
守る知恵	4.83	5.20	5.77
子育ての悩み(平均順位)			
生活リズム	3.35	3.15	3.92
TV視聴	3.93	4.24	5.06
ほめ・叱り	1.26	1.96	1.26
遊ばせ方	4.29	4.06	3.32
家族の不参加	5.73	5.43	6.63
親としての責任(平均順位)			
感動する心	4.82	4.45	5.92
自分でする	3.75	4.61	5.04
挨拶	5.06	4.65	3.54

数値が小さいほど高い順位

(2-3) 子育て支援への要望の違い

地域や行政機関が子育てをサポートすると考えられる内容を示した8項目について、支援してほしい順に順位をつけて回答してもらった。その順位づけの背景にある子育て指向が、先の3群によって相違しているか否かを調べるために、非線形主成分分析(Nonlinear Principal Components)を行った。さらに、数値化された成分値に対してクラスター分析を行ったところ、3群それぞれに特有の支援要望の違いが見出された(附図1、2、3)。

第1群では、「保育の場提供-早期教育の場提供」の次元と「保育の場提供-子育て情報の提供」の次元でサポート要望を整理することができる。保育の場提供として、一時預かり、子育てアドバイザー、子どもの特徴を尊重した特別支援、子育て講座、子育てサークルが一つの集まりになっている。子育て情

報の提供は一つの独立した要望であり、子どもと一緒に遊べる場と早期教育の提供が一つの集まりとして要望されている。この第1群では、保育の場、情報を得ての学習、能力の開発というように大きくまとめることができるが、子育てサポート要望が未分化でもある。

第2群では、次元軸に沿って検討するよりも、子育てサポート要望が4つの集まりとなっていることに注目するのが妥当であろう。一時預かり及び子どもと一緒に遊べる場、子育て情報及び子育て講座がそれぞれ独立し、しかも相対する要望として位置づけられており、第1群と比べると子育てサポート要望が分化している。さらに、子育て講座、子育てサークル、子育てアドバイザーが一つにまとまっているのは、子育て情報を受け身的に得るのではなく、親同士が共同して子育ての学習をしたいという要望であろう。また、子どもの特徴を尊重した特別支援と早期教育とが一つにまとまっているのは、個性に着目した子育ての場を提供してほしいと要望されているからであろう。

第3群では、第2群と同様に子育てサポート要望が3つの集まりとなっている。早期教育と子育て情報の提供も視点に入れて子どもと一緒に遊べる場の要望が一つの集まりとなっている。次いで、一時預かりと子育てサークルとの集まりがあり、さらに、子育てアドバイザーや子育て講座・特別支援のまとまりがある。一緒に遊べる場の要望は能力の開発への視点であり、一時預かりは親同士が共同して子育てする視点である。子育てアドバイザーは個性に着目した子育て学習の視点であり、第2群よりもさらに分離しているところに特徴がある。

整理すると、無関与的を特徴とする第1群

では、「子どもを一時的に預かる保育の場」が混然とした形で要望されている。受容・共存的の第2群では、「子どもを一時的に預かる保育の場」「子どもと一緒に遊べるの場」「子育て情報」「子育ての学習」が最大公約数的に要望されている。ある意味では、第2群はバランスのとれた要望をしていると思われる。能動的である第3群では、「子どもと一緒に遊べる場」「共同保育の場」「子育て学習」が分離して要望されていて、その積極性が現れている。しかし、家庭の育児機能や子育ての悩みが単一的であり、積極性が地に着いていないのかも知れない。

子どもとのコミュニケーション方略への意識の違いに対応して、地域や行政機関にサポートしてほしい内容が異なることが確認できたと見なせよう。

【考察及び支援モデルの提案】

子育てによるストレスがよく論議されるが、その程度は子どもの性別よりもむしろ子どもの数によって異なり、しかも複数の子をもつ親の方が子との一体感が強い。つまり、子育てのストレスや疎外感子どもの性別や数など単純な要素によって決められるものではない。

また、家庭の育児機能について調べたところ、大抵の親は子どもに関心を抱き、TVの見せ方や屋外遊びの意義を考えて子どもの行動をコントロールしている。今回コミュニケーション方略を主点に分析を行ったが、スキップの大切さが共通認識として、高い割合で定着していたことが特徴的であった。

また、家族の協力や言葉を多くかけるなど、行動性や主体性を意味する回答率が高いことから、子育ては親の主体的行動であるとの認

識が強いようである。そのため、子どもへの関わり方に逆に迷いが生じているのではないかと思われる。

個々の親がどのような支援を望んでいるのかを把握するため、コミュニケーション方略の違いを主点に類型化して検討を行った。結果に基づくと、子への関わりを特に意識していないと答え、子育て支援への要望が未分化な第1群は、ストレス感と疎外感を最も強く感じている。また、この群の悩みは極めて現実直結しており、子どもの生活リズム、TVの見せ方など子どもの生活規律についての悩みが最大であった。「保育の場提供」と「子育て情報の提供」を求めるこの群の保護者にとって、必要な子育て援助は一時的に預かってもらえる場の確保であり、具体的な子育てアドバイスや情報の提供でもあった。

最も人数が多く、コミュニケーションに関して受容的姿勢をとり、子育て支援への要望が分化している第2群は、親としての責任は子どもに感動する心を育てることにあると考えている。この群はどの子どもの個性をも尊重すると共に、他の親と交流できる場を求め、一時的に子を預かる場や子育ての情報についても他の親と共同して情報交換をしながらの子育てを指向しているため、求める支援は「みんなで共に」である。

家族全員で、言葉をかけること、いわば能動的に関わる第3群は、知的に子育てしようとしている親たちであろう。子どもへの躰では挨拶やエチケットができる、「きちんとした子」をイメージし、悩みは生活リズムやTVの見せ方など生活規律に関することよりも子どもとの遊ばせ方などじかの触れあい方にある。この群の保護者は子どもの能力開発に関心があり、子の個性にも着目している。こ

の群の保護者が求める支援は能力開発に関する場と情報であり、さらに個性的な成長ができるためのアドバイスやスキルである。

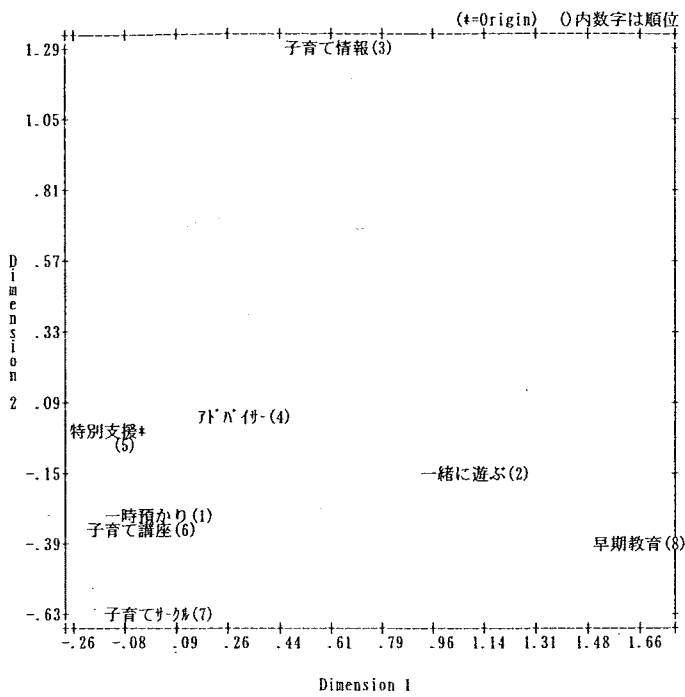
以上のことを踏まえると、地域の子育てセンターが子育て支援モデルを開発し提供する際の鍵は「場の用意・提供」である。子どもを一時的に預けられるシステムを備え、親子が一緒に遊べる場として機能することが第一である。次に必要なものは「人的な配置」である。子育てアドバイザーや子育て講座に求められているのは生活規律の具体から、しつけ方、情緒的発達までの幅広い助言である。心理学の専門家では必ずしもなく、健康、福祉などの専門家を求めているところもある。3つ目に必要なのは「情報の提供」である。保護者が子育て情報に期待するのは、「みんなで共に」が満たされる感覚であり、子どもの成長に欠かせない安心感もここから生まれるはずである。

【今後の課題】

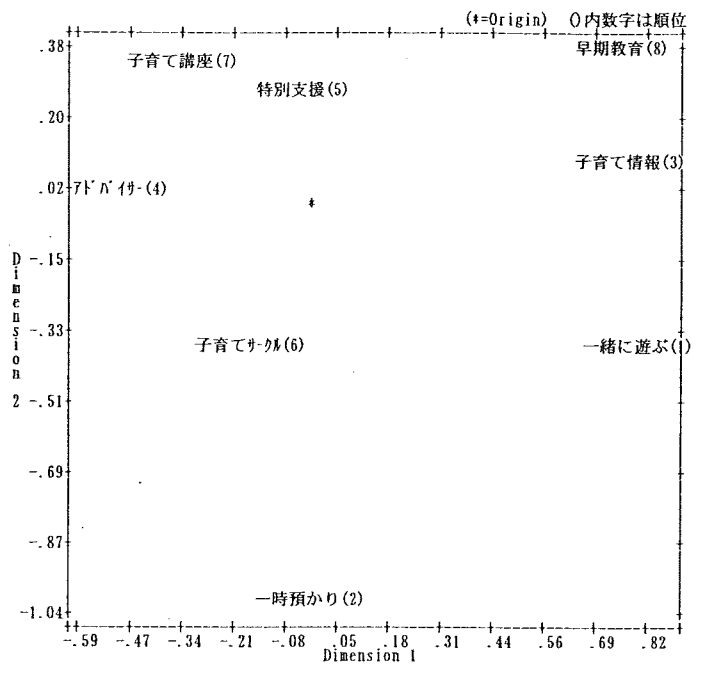
今回の調査では、回答者の負担を考慮して項目を少なく設定したため、情報量は限られている。今後、質問項目の精度を上げ、フィールド研究法等によって行うことが必要である。

【参考文献】

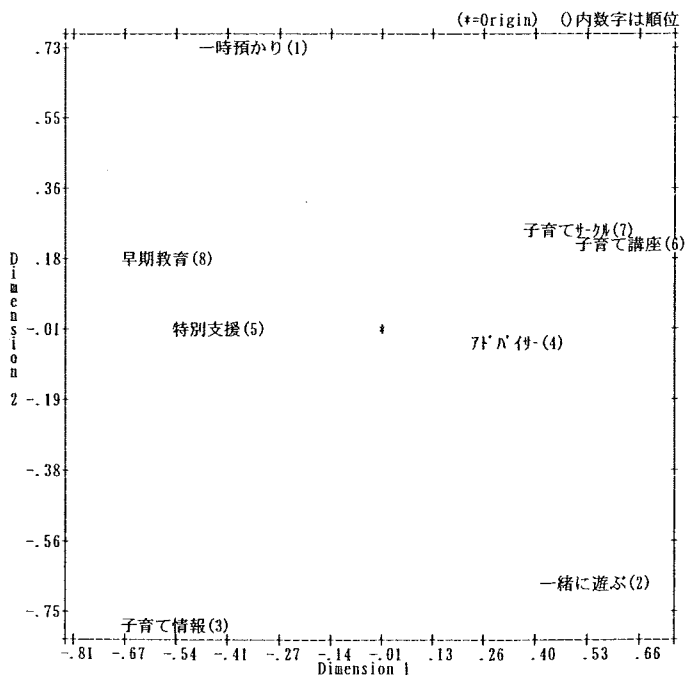
1. 秦野市教育研究所(2002) 「不登校の実態と解決への試み」 秦野市教育委員会
2. 垣内国光・桜谷真理子(2002) 「子育て支援の現在」 ミネルバ書房
3. 川崎市社会教育委員会議(議長岡田守弘)(2002) 「研究活動報告書：こども はつらつ おとな いきいき」 川崎市教育委員会
4. 菅原ますみ他(2002) 「夫婦関係と思春期の子どもの抑うつ傾向との関連」、教育心理学研究、50、129-140



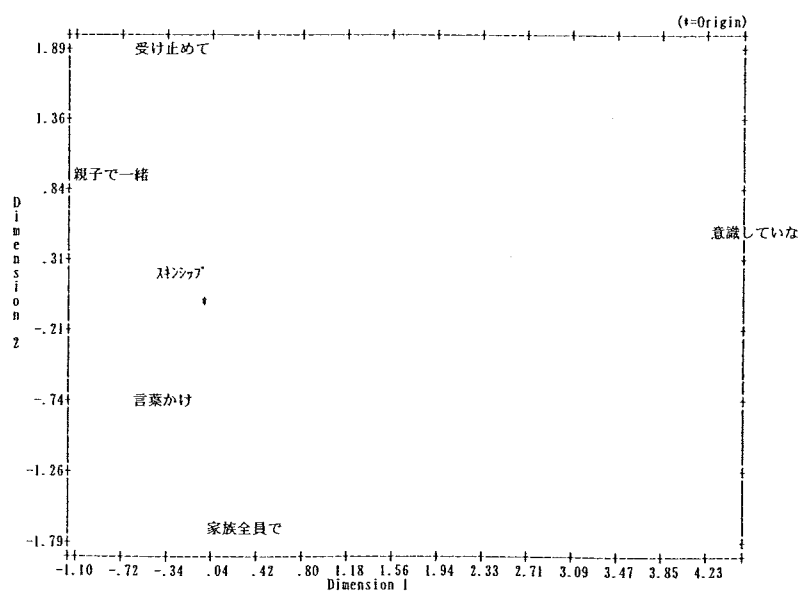
附図 1 第1群の成分負荷プロット



附図 3 第3群の成分負荷プロット



附図 2 第2群の成分負荷プロット



附図 4 子への関わり方カテゴリーに付与された数量によるプロット

「子育て」についてのアンケート調査

子どもが健やかに成長できること、これはいつの時代においても親にとって最も大切な願いです。しかし、子育ては親や家庭だけに負かされるものではなく、多くの関心とサポートが必要です。健康な子どもが育つためには何が必要か、また、ゆとりのある子育て生活をしていただくために、地域や社会はどのようなサポートを行ったらよいのかなどについて、あなたのご意見を教えてください。

なお調査結果はこの研究のためだけに用い、個人情報特定することはいたしません。どうぞ、ありのままの気持ちでお答えください。

ご協力くださいますよう、よろしく願っています。

横浜国立大学教育人間科学部
教授 岡田 守弘
助教授 芳川 玲子

I. あなたやお子さんのことを教えてください(あてはまるところに○をつけてください)。

I-1

あなたの性別は： 男 女
あなたの年齢は： 19歳以前 20歳～24歳 25歳～29歳
30歳～34歳 35歳～39歳 40歳以降
あなたは働いていますか？ はい いいえ
*「はい」の場合は、どのようなお仕事ですか？
フルタイムの仕事 パートタイムの仕事
自宅での仕事 不規則の仕事

I-2

幼稚園に通っているお子さんは何番目のお子さんですか？
第1子 第2子 第3子 第4子 第5子
そのお子さんの性別は： 男 女
そのお子さんの年齢は： 2歳未満 2歳 3歳
4歳 5歳 6歳

I-3

お子さんの健康状態は： 良い まあまあ良い あまり良くない 良くない

II. ご家族のことを教えてください。

一緒に住んでいるご家族を○で囲み、人数あるいはどなたであるかを書いてください。

自分 配偶者(夫 妻) 子ども(人)
自分の両親(父 母) 配偶者の両親(父 母)
自分のきょうだい 配偶者のきょうだい

近所に自分や配偶者の両親が住んでいる
同居ではないが同じ敷地内に住んでいる
(住んでいるのは：)

1. お子さんを育てながら、次のようなことを感じたり、考えたりすることがありますか？
①から④の中で、もっとも当てはまる数字に○をつけてください。

- (1) 子育てに自信がなくなる ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (2) 充実感がある ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (3) 子育てで中心で社会から遠ざかっている ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (4) 子どもこそ生きがいである ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (5) 子どもがいなければよかった ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (6) 自分のやりたいことができない ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (7) 子どもを持って自分も成長できた ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (8) 育児ノイゼになる人の気持ちがわかる ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (9) 自分の中で重要なのは子どもである ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (10) 子どもをたたいたり、つねったりする ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (11) 子どもは自分の体の一部のような ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (12) 子どもさえいれば幸せである ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (13) 子どもがいなかった時の生活を返展 ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (14) ほめるより叱ることが多い ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない
- (15) 忙しくて、待つことができない ①いつも ②時々 ③あまりない ④まったくない

II. 次の質問では、当てはまる()内に○をつけ、あるいは数字を書いてください。

01. お子さんは、一日平均して(何時間テレビ(ビデオを含む))を見ていますか？
()時間
02. お子さんにテレビやビデオを見せるとき、何か工夫をしていますか？
()はい ()いいえ
- *「はい」の場合、どのような工夫ですか、当てはまるすべてに○をつけてください。
()見る時間を決めている
()見る番組を決めている
()放映されたマンガやアニメをビデオにとって見せている
()教育番組を見させている
()ストーリーのあるビデオを買って(借りて)見せている
()早期教育に役立つ番組やビデオを見させている
03. 幼稚園に行っていない時、お子さんを家の外で遊ばせていますか？
*当てはまる一つに、○をつけてください。
()いつも出している
()時々出している
()あまり出さない
()まったく出さない
- *その理由を次の中から二つ選んで、○をつけてください。
()他の子をけがさせると大変だから
()外に出しても一緒に遊ぶ同年代の子がいないから
()他の子や人から悪い影響を受けるから
()様々なタイプの子と遊ばせることが大切だから
()からだを使う運動ができるから
()様々な子と関わる経験ができるから
()健康で伸び伸びとした子に育てたいから

04. お子さんを家の外で遊ばせることができないとしたら、どんな理由ですか？

- *当てはまる二つに、○をつけてください。
()公園などの遊び場が清潔ではない
()遊び場所としての設備が十分に整っていない
()事件が多く発生する今時なので安心して出せない
()交通事情や環境などの安全面が心配だから
()乱暴な子がいるので安心して出せない
()他の親とのつき合いが大変だから
()外へ行く気がかりすぎて親が疲れる

05. お子さんと、どのような関わり方(コミュニケーション)をするように心がけていますか？

- *当てはまる二つに、○をつけてください。
()子どもの気持ちを受け止めて一緒に感動する
()抱き寄せてスキンシップをするようにしている
()言葉をかけることを多くしている
()親子で一緒に遊ぶようにしている
()休日などは家族全員で過ごすようにしている
()これと違って意識していない

06. 子どもへのしつけは難しいと言われますが、どんなところが難しいのだと思いますか？

- *当てはまる一つに、○をつけてください。
()しつけと言われるものの内容がよくわからない
()どの程度まで厳しくしたら良いかわからない
()社会のルールがコロコロ変わるので、家庭のルールが決められない
()しつけの内容について家族全員が違う考え方をしている
()子どもがなかなか言うとおりにしてくれない

07. 子どもへのしつけにおいて、大切なことだと監視しているのは何ですか？

- *大切な順に1, 2, 3... というように数字を書いてください。
()規則正しい生活
()挨拶やエチケット
()良いか悪いかの正しい判断
()将来のリーダーになるための動き方
()自分のことは自分です
()思いやりの心
()自分を守る智慧や技術
()文化・伝統を大切に

08. お子さんの友だちの行動を見て、気になることがありますか？

- *当てはまるすべてに、○をつけてください。
()礼儀正しい
()利発そう
()活発そう
()乱暴で落ち着きがない
()がまんができない
()生活習慣ができていない
()心理的に不安定
()ゲームやおモチャをたくさん持っている

09. お子さんの友だちの親を見て、気になることがありますか？

- *当てはまるすべてに、○をつけてください。
()子育てが上手
()子どもに対してやさしい
()余裕を持って子どもに接している
()しつけが厳しい
()友だちのように接している
()教育熱心である
()子どもに甘い
()子ども中心の生活を過ごしている
()子どもは子ども、自分は自分の生活をしている

10. 「子育て」で悩むことはなんですか？

- *もっとも悩む順から1, 2, 3... というように数字を書いてください。
()生活リズムの作り方
()テレビやビデオの見せ方
()ほめ方・叱り方
()遊ばせ方
()他の親との付き合い方
()安定した気持ちで子育てができない
()孤立感に耐えられない
()配偶者や家族が子育てに参加してくれない

11. 「子育ての分業化」(子育てをみんなで分担)という考え方がありますが、親として責任を持って育てるべきものはなんですか？

- *親が育てるべき順に、1, 2, 3... というように数字を書いてください。
()感動する心
()他の子・人との付き合い方
()社会に適用するルール
()自分のことは自分です
()思いやりの心
()良いか悪いかの正しい判断
()言葉づかい
()挨拶の仕方

12. 子育てを地域や行政機関にサポートしてもらいたい場合、してほしいことはなんですか？

- *もっともしてほしい順から1, 2, 3... というように数字を書いてください。
()子育て講座や家庭教育学級を開設する
()子どもを一時的に預かる場を開設する
()子育ての相談者やアドバイザーを開設する
()子育てに関する情報を開設する
()子どもの特徴を尊重した特別支援の場を開設する
()子育てサークルのような親の会を開設する
()子どもと一緒に遊べる場を開設する
()早期教育や英才教育をする場を開設する

13. お子さんについて具体的に悩んでいることがありますか？

- もしあれば、それはどんなことですか？
()
()

ご協力、どうも有難うございました